

刺

繡

小

説

みなさんに会えない日が続く中、5月になりました。お休みの間、どんなふうに過ごしていますか？私は本を読んだり、音楽を聴いたり...いつもとあまり変わらない過ごし方かもしれません。普段より集中した時間を取れたのは刺繡。無心になって縫っていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。図案や色の組み合わせを選んで縫って、下手ながらも完成したときは達成感を味わえます。そんなわけで今回紹介するのは「刺繡小説」。本校OGの神尾茉莉さんの本です。小説に描かれている刺繡シーンを実際に作品化したり、小説の名場面に登場しているかもしれない架空の刺繡小物をつくってみたり…。素敵な作品ばかりで、自分でもできたらいいなあ、とうっとりしながら見てしまいます。やってみたくなったら、掲載されている図案をもとに、レッツチャレンジたくさんのお話が紹介されていますが、私のお気に入り「グロースターの仕立て屋」。ピーターラビットでお馴染みのビアトリクス・ポターの本です。グロースターの貧しい仕立て屋が、そこに住むねずみの助けによって市長さんの服を期日までに作り上げ、運が巡ってくる...という物語。お話の良さもさる事ながら、挿絵のかわいくきれいなこと！そのあとに神尾さんが刺繡した作品を見ると、世界観がさらに広がって、おもしろさ2倍になること間違いなしです。刺繡のシーンって意外とあるんだ！と気づいたり、その時の登場人物の気持ちに寄り添ってみたり、いつもとは違った楽しみ方もできました。刺繡は、手間暇かかるもの。本を読んで感じた思いや、いま抱えてる心配や悩みを針と糸にこめて縫ってみるのもいいかもしれませんね。

1985年生まれ。美術家。

刺繡・絵・言葉によるクライアントワーク、テキスタイルプロダクト制作、インスタレーション作品の展覧会などで活動。

“言葉を持たない物語”をコンセプトに刺繡で動物を表現する

「ひみつのはなし」の制作を2014年より本格化し、発表の場を広げている。

主な著書に『ひみつのステッチ 刺繡で雑貨&小物づくり』『紙刺繡のたのしび』『さがそ！ちくちくぬいぬい』など。

神尾茉莉